

山
SAN

海
KAI

虹
KOU

路
RO

復興記録誌

山田町



2011

2020

岩手県
山田町

あの日から 立ち止まる ことなく

——写真でみる今の山田町——

「あの日」からもうすぐ10年目の春——。

春霧漂う十二神山^{じゅうにしんざん}、霞露ヶ岳、鯨山が、まちと海を抱きしめる。

若草萌える豊間根の水張り田んぼが空色を映す。

山田湾にシーカヤックが遊び、空に花火が咲く夏。そして誰もが、帰る場所はこちらだと「山田祭り」の秋に集う。

ここは、私たちのふるさと。

山のように豊かな そして海と空のような澄んだ心で、鯨のように悠々と、大きな未来を目指そう。

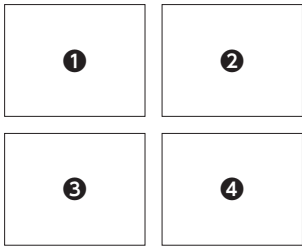


山田町役場の屋上から見た街の風景（撮影日：2020年9月）

あの日から
立ち止まる
ことなく



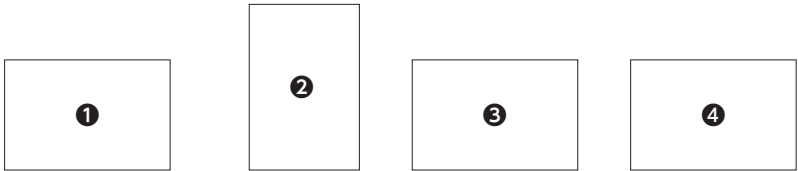
多くの商業施設が集まる長崎街道。三陸鉄道リアス線の踏切と、奥には金融機関が並ぶ(撮影日：2021年2月)



- ① 共同店舗棟「オール」(撮影日：2020年8月)
- ② 3棟を構える山田中央団地(撮影日：2020年9月)
- ③ 高台に移転した船越小学校(撮影日：2020年9月)
- ④ 整備が完了した船越漁港(撮影日：2020年9月)



2020年7月、栈橋や遊歩道の整備が完了したオランダ島(撮影日：2020年8月)



- ① エメラルドグリーンの海と白い砂浜が広がる荒神海水浴場(撮影日:2019年5月)
- ② 浦の浜海水浴場でシーカヤックを楽しむ親子
- ③④ 2020年には、オランダ島で震災後初となる海開きが行われた(撮影日：2020年8月)





大津波と台風、2度の災害に見舞われた
鯨と海の科学館。
2020年7月15日に再オープンを果たした
(撮影日：2020年10月)



再建された陸中山田駅に入線する列車 (撮影日：2020年11月)



三陸鉄道陸中山田駅 外観 (撮影日：2020年8月)



三陸鉄道岩手船越駅 外観 (撮影日：2020年11月)



三陸鉄道織笠駅 外観 (撮影日：2020年12月)



三陸鉄道豊間根駅 外観 (撮影日：2020年12月)



山田町長 佐藤 信逸

東日本大震災の発生から10年の歳月が経とうとしております。

改めてお亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

未曾有の大震災からこれまで取り組んできた復興事業も完成となり、一区切りを迎えることになりました。

震災から今日までの道のりは、決して平坦なものではありませんでした。復旧・復興・発展と険しく長い道のりをここまで歩んでこられたのも、多くの方々のご理解とご協力の賜物であると感じております。ここに改めて深く感謝を申し上げます。

震災の年に山田町に生を受けた子供92人は、現在、小学3・4年生になっています。その後に生まれた子供たちも相当数になり、この子供たちにも大震災のことをしっかりと伝え、町の将来を担う人材として育成していかなくてはならないと思います。

多くの町民を亡くし、焼け野原になったあの日の光景から、今日の町の姿をだれが想像しえたでしょうか。新しい街並みは三陸鉄道陸中山田駅を中心に商業施設や金融機関、災害公営住宅を集め、コンパクトな街づくりを進めてきました。また、細浦・柳沢線の開通により三陸沿

岸道路に直結し、県立宮古病院等へのアクセスも格段に向上したところです。

復興計画で掲げた、コンパクトで利便性の高い中心市街地の形成、命をつなぐ道路整備、既存集落に配慮した高台住宅団地の形成などの事業を、この10年間で形として実現することができたと考えています。

一方、地球温暖化の影響か、おとしの台風19号の例を見ても災害の激甚化、多発化が懸念されております。また、鯉などの寒冷地の漁が不振であるなど新たな課題も生じてきています。

更には、新型コロナウイルス感染症が世界に暗い影を落としております。これらのことからわかる通り、千年に一度と言われる大震災も人知を超えて起こりうるということであり、今後は千島海溝、日本海溝での地震による津波も懸念されています。

この度の復興記録誌の発刊が、これまでの取り組みの成果や課題などを記録として残し後世に伝えるとともに、今後の災害に対する備えと教訓としてお役立ていただければ幸甚です。

令和3年3月 山田町長 佐藤 信逸

山田町復興記録誌 2011-2020

山海虹路 (SANKAIKOURO)

目次

あの日から立ち止まることなく―写真でみる今の山田町―	002
発刊にあたって	010
目次	011
特別寄稿 「3・11の星空―夜空が導く未来―」	012
広島大学宇宙科学センター教授 川端 弘治	014
岩手県・山田町とは	017
第一章	015
未曾有の災害に際会した日	016
―咆哮し襲い来る大津波―	017
山田町の概要	020
三陸と山田町の海嘯史	022
東日本大震災発災 地震と津波の規模	026
あの日起きたこと	030
絆 つながり たすけあい	032
津波の爪痕	034
飯の暮らしから復興へ向けて	036
Photo essay わたしの一枚「おらいの船と夕焼け」	037
第二章	038
復興計画の策定	041
―明日を創っていくために―	043
復興へのスタートライン	045
復興ビジョン	046
復興計画行政素案	047
山田町復興計画の公表	048

第三章 山田町復興十年のカレンダー

―山田町の十年の歩み―

049

2011年	050
2012年	052
2013年	054
2014年	056
2015年	058
2016年	060
2017年	062
2018年	064
2019年	066
2020年	068
特別寄稿 「新たなふるさとへ、ありがとう。」	070
タレント 山田 邦子	072
Photo essay わたしの一枚「復興の夜明け」	074
第四章	073
産業分野別復興状況	074
―再生と創造未来を築く―	075
①基盤整備	076
②漁業	078
③農林業	080
④商工業	082
⑤観光業	084
⑥教育	086
⑦医療・介護・福祉	088
⑧住民生活	090
⑨交通	092
⑩公共施設	094
⑪上下水道	096
⑫防災	098
⑬津波伝承	100
⑭外からの視点	102
⑮台風19号の被害	104
⑯新たな観光拠点	106
第五章	161
感謝	162
―支援から生まれた絆―	163

岩手県警察本部 警備部長 石川 康さん

山田町水産商工課 高山賢次さん

同建設課 市澤裕二さん

静岡県経営管理部行政経営局行政経営課

矢崎祐美さん

京阪ホールディングス株式会社 長瀬元紀さん

北海道池田町・北海道池田高等学校

岩手県立不來方高等学校

Dirringわかんたんか 店主 瀬川弘勝さん

認定NPO法人国境なき子どもたち (KINK)

マネーシングコミッティ 清水 匡さん

公益財団法人国際開発救援財団 (FIDR)

ネパール事務所所長 前田桂子さん

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (SCJ)

国内事業部 山田心健さん

国連児童基金 (ユニセフ)

シンパブエ事務所教育部 近藤智春さん

東日本大震災 山田町での支援活動内容

「やまだまち」との出会い

絵本作家 山田 マチ

Photo essay わたしの一枚「船越公園グラウンドゴルフ場」

第六章

クローズアップ山田人

―心に夢と希望と誇りを灯し―

①教育の十年

②鉄路のチカラ

③定点観測写真

④消防士を志して

⑤鯨と海の科学館

⑥役場職員の十年 座談会

⑦県立山田高等学校の取り組み

⑧やまだワンダフル体験ビュロー

Photo essay わたしの一枚「荒れ地に立つコスモス」

支援者の方々

ボランティア団体一覧

長期派遣職員一覧

災害協定締結一覧

参考図書一覧・奥付

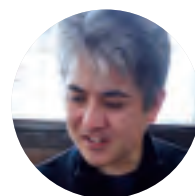


「3・11の星空（夜空が導く未来）」

広島大学宇宙科学センター教授

川端 かわばた

弘治 こうじ



Profile

山田町出身。東北大学大学院理学研究科修了、国立天文台研究員、広島大学大学院理学研究科助手等を経て、2017年現職に就任。専門は観測天文学で、最新技術を取り入れた観測機器を開発しながら、超新星などの恒星における爆発現象や、ブラックホール・中性子星などの強い重力が引き起こす激しい天体現象を研究している。今も年に一度は山田町へ帰省している。

山田町大浦の実家を離れて30余年。今でも時折、山田を舞台にした夢を見ますが、変に都会化されていたり、山田湾に橋が架かっていたり、夢の中で見る山田の景色はさまざまです。

大浦は船越半島にある小さな港町です。風の夜に岸壁へ出ると、そこには海の十和田湖とも呼ばれる山田湾。わずかな波の音だけの静寂の中に、いずこかの漁作業や夜釣りの音がかすかに聞こえ、対岸の灯がきれいに映し出された水面の上には、たくさんの星が輝く夜空が広がっていました。私は今、広島大学（広島県東広島市）で教鞭をとりながら天文学の研究を行っています。天文学に関わったきっかけは、小さい頃に地元で見上げていた、時折海よりも深く感じられたあの星空にあったと思います。

2011年3月11日の午後、職場のひとつ、東広島天文台にて、東京方面での大地震の報に接し、急いでテレビのある部屋に向かいました。東京近郊の発電所の火事の映像に重なった「大津波警報」のテロップと、地図上で真っ赤に点滅する三陸の海岸線を見て、胸騒ぎを感じ

ながら、小さい頃に受けた津波教育を反すうしていました。大浦では毎年、明け方に地域のサイレンが鳴り響いて高台に避難する訓練があり、1933年の三陸大津波を経験した年配者の話を聞いたりすることがありました。大きく揺れた後、まず海の水が引いて海底が見え、手づかみで魚や貝が採れたこと、そのせいで逃げ遅れた人、津波はいわゆる波のようなものではなく海全体が怒ったようにせり上がるもの、強い地震があったらこの小学校（現・大浦漁村センター）より高いところへ逃げろ、船は沖合に出すほうが良い等々、地域独自の津波教育がありました。三陸大津波はだいたい50年周期で起こるからもうすぐ来る、とも聞いており、60年経っても70年経っても、話に聞いたような津波が無いことが何とも不気味でしたので、初めて接した大津波警報には空恐ろしい戦慄を覚えました。一方で、広島では揺れは感じず、当日の晩も晴れて東広島天文台では普段通りに天体観測が行われましたし、物資の流通も十分で、生活は日常そのものでした。私の親兄弟の安否が

不明だった数日間、ありきたりの日常と、断片的に知る山田町の惨状とのほざまで、気持ちを整理しながら過ごした記憶があります。

当時、山田では停電が復旧するまで、夜空はとても暗く、星がたくさん見えたとそうです。小さい頃に私が見た空よりも、もっと深く、悠久に感じられたでしょう。愕然とする現実と直面しながらも、夜空にきらめく星々を見て、復興へ歩み出す力を得た人もいたかもしれません。

私は一応、科学者のはしくれで、非科学的な事はありません。好きではないのですが、壮大で普遍的な存在に接することで、安寧を感じたり、身近な問題を客観視するきっかけを得る感覚には共感できます。当時の夜空の星々がそういった存在になったのであれば良いと思います。

あれから間もなく10年が経ちます。山田の復興は道半ばという印象ですが、いずれ克服できると信じています。気候的にも地理的にも、あれだけの厳しい環境にありながら、何百年以上も前から漁業を中心としたコミュニティが点在し、50・80年ごとの津波や、幾度の飢饉も乗り



越えて発展してきたことは、歴史が証明してくれています。過疎化に関しても、この度のコロナ禍によって一極集中型・都市化指向の危険性が露呈し、地域分散型の安定感が見直されつつあると思います。宇宙でも、物質が一極集中した最たる現場と言って良い超巨大ブラックホールは、その膨大な重力エネルギーが災いし、不可逆的で破滅的な現象しか起こしませんが、星々や星間ガスが適度にばらけて緩やかに相互作用する環境なら、持続的な進化に有利に働きます。この前、岩手に帰省したとき、最近整備された復興道路の利便性に驚きました。山田町と周辺地域を結ぶ新たな動脈として大いに役立つことでしょう。山田の各地域に古くからあるコミュニティはそのままに、周辺の市町村と連携したネットワーク型の地域社会が醸成されていくことが期待されます。災害に耐えつつ、豊かな海産・森林資源に支えられて育まれてきた山田の潜在力を信じて、さらなる復興を見守っていききたいと思います。夢の中で見る山田の景色だけでなく、10年後、20年後の未来の山田がどんなものか、楽しみにしながら。



A 広島大学宇宙科学センター附属東広島天文台とその夜空。(撮影：伊藤亮介氏)

B 1974年3月、実家近くの大浦海岸壁にて、山田湾と十二神山を背景に実姉と実兄、従姉とともに。川端氏の実父が撮影。

C 2011年3月19日、震災直後の大浦海岸壁。(撮影：川端弘治氏)

D 2017年7月、東広島天文台での観望会にて、望遠鏡による観望の案内をする川端氏。(撮影：内海洋輔氏)



岩手県・山田町とは

震災前の人口

19,270人 (平成23年3月1日)

現在の人口

15,073人 (令和3年1月1日)

面積 262.81 平方キロメートル



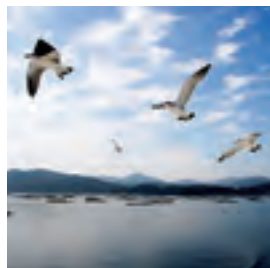
町章

町民の平和、協力、発展をそれぞれ
湾、波、船としてあらわしたもの。



町の花・ハマナス

海岸の砂地に生える落葉低木で、
6～7月に開花し、香りがよい。最
近は少なくなったが、渡磯海岸な
どの一部に生息している。



町の鳥・ウミネコ

山田町で普通に見られるカモメ類
で、その鳴き声がネコに似てい
る。純白な姿は典型的な浜の鳥で
あるが、尾の先端に5cmほどの黒
い帯があり、他のカモメと見分け
られる。



町の木・スギ

日本特有の常緑高木で、その名は
直木（すぎ）またはすくすく伸び
るの意から出たといわれている。
建築材料として重要で、山田にも
多くの造林がある。